



東口に誕生した再開発ビル



事業前の浦和駅東口



緑豊かな浦和駅西口駅前広場



事業前の浦和駅西口

協定解除など数々の困難を乗り越え、平成19年10月に市の複合公共施設「コムナール」と民間商業施設「パルコ」が融合した再

こととしています。一方の東口では、西口市街地改造事業の完成を受け、商店会等で市街地再開発事業への機運が高まりました。昭和63年の地元組織の発足後、出店協定を結んでいた核テナントとの

### 駅東西市街地の一体化に向けて

西口南地区は、西口市街地改造事業に続く地区であり、複数の地区で順次市街地再開発事業が行われています。平成15年、18年には、住宅棟を中心に公共駐車場や商業施設が配置された2つの事業、第三・第四地区が相次いで完了しています。現在は、高砂地区で事業化に向けた検討が重ねられています。

には、写真館、花屋、染物屋などの古い建物もあり、ふと懐かしい気持ちになります。平安時代の創建といわれ、しだれ桜で有名な玉蔵院前の「玉蔵院通り」は、沿道の景観に配慮した形で街路灯や道路が整備されています。

その後、オイルショックに続く不況の中、139名の権利者と行政の協力により、約14年の歳月をかけて、昭和56年4月に待ち望んでいたコルソや伊勢丹などの商業施設と西口駅前広場が完成しました。駅前広場は以前の6倍もの広さとなり、

進めることができました。その後は、オイルショックに続く不況の中、139名の権利者と行政の協力により、約14年の歳月をかけて、昭和56年4月に待ち望んでいたコルソや伊勢丹などの商業施設と西口駅前広場が完成しました。駅前広場は以前の6倍もの広さとなり、

### まちづくりの第一歩「西口の改造事業」がスタート



歩行者専用道路となっているさくら草通り

貴重な緑地空間も創出され、県都浦和の表玄関が整備されました。



高砂二親会商店街振興組合前理事長の吉永さん

時代、歩行者専用道路などは理解されにくかったのですが、沿道の商店主を説得して、自動車のない通りにしました。今でもそれが良かったと思っています。

この通りは中山道を渡ると、浦和中央商店街振興組合の商店街へとつながり埼玉会館まで続いています。ここでは、古本いち、物産いち、福祉団体のバザーなどが定例開催され、活気にあふれ市民が触れあう空間になっています。

### 古さと新しさの調和したまちづくり

この界限では、さくら草通りのほかにも、いくつかの素敵な通りと出会えます。道沿い

開発ビル、駅前広場、市民広場が整備されました。さらに、浦和駅の南側では、駅東西の市街地再開発事業と鉄道高架化事業により、都市計画道路「田島大牧線」が2車線道路から4車線道路に拡幅整備され、本市の東西方向の交通がより一層円滑になります。また、鉄道高架化事業では、浦和駅舎も改築され、駅構内に幅員25メートルの東西連絡通路が

整備されます。これらの事業により、東西に分断されていた浦和駅周辺のまちがひとつになり、賑わいと潤いのまちへと発展していくことが期待されます。今後も、市街地再開発事業、鉄道高架化事業、街路事業などを総合的かつ一体的に活用し、さいたま市の魅力ある表玄関の完成へ向けて、浦和駅周辺のまちづくりを進めます。

浦和駅周辺鉄道高架化事業の完成イメージ図



景観に配慮した玉蔵院通り

